

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【教育科学系】

授業・幼児教育への理解度について以下の割合で評価した。
授業内提出物30%、授業への参加度30%、レポートの提出40%

基本的には、最終確認テストの結果を踏まえて評価した。最終確認テストは、それまでの確認小テストの設問が9割以上である。確認小テストにこつこつ取り組んでいる学生は大概最終確認テストでも9割以上のスコアを取るため、S評価が多くなっている。必修科目であるため、3分の2の出席をクリアした上で最終確認テストが6割取れなかった学生に関しては追試を行うことを事前に伝えておいたが、今回は該当学生がいなかった。該当学生がいる年度は、追試をクリアした場合は、その点数にかかわらず60点で通している。

講義では、講義内容を反映させたテストに、出席状況とアクティブラーニングでの学習の報告レポートを加味して評価した。実習では、実習態度、毎回のレポートの内容と提出状況、最終レポートの内容などで評価した。

シラバス通りです。

・シラバスに記載したように、レポート内容、授業参加度、出席状況を、授業目標への到達状況を踏まえて総合的に評価した。また、筆記試験を課した科目では、筆記試験を合わせて総合的に評価した。

特別支援学校(視覚障害)の免許を取得可能な全国の大学のカリキュラムを概観し、内容や達成基準は、全国の平均レベルになるよう調整している。評価基準は、教員養成という特性を踏まえると、もっと厳しくてもよい状況である。

・いずれの科目も実習科目であり、授業への出席状況及び実習時の参加態度および課題レポート等を総合的に評価しました。
・救急処置の技術の修得に関しては、実技テストで評価をしました。
・臨床実習Ⅱに関しては、実習記録、課題レポート等の記述内容から評価をしました。

毎回実施する単語テストの点数の集積と、期末テストの成績に出席状況を加味して成績を出した。

期末に行った本試験及び追試験の得点により評価した。追試験は、本試験で60点未満の者に行った。また、本試験の得点は、 $\text{本試験の得点} + (100 - \text{本試験の得点}) \div 4$ を、追試験受験者に対しては、 $(\text{追試験の得点} - 60) \div 4$ を60点に加えた点数を成績とし、本試合格者と追試者の成績が逆転しないよう配慮した。

・出席率
・授業で紹介した事例を学生がどのように理解しているのかをレポートさせ、成績評価に反映させました。

評価については、
授業への参加状況(発言や事前準備、授業後の質問等)
「個別の指導計画」「指導案」等の完成度
模擬授業の進め方
等を総合的に評価した。

制作過程において、どの程度独自の視点で問題を見出し、さらに解決できたかという点と、作品づくりにおいてどの程度丁寧に正確に制作できたかという点に関するレポートを書いて頂いたため、授業中の制作の様子に加えて作品そのものとレポートの両方も見せて頂いて成績評価を出させて頂きました。

- ・学生から授業毎にレポートを提出してもらい、出席点としました。
- ・授業科目終了後に試験を行いました。
- ・出席点と試験は半々に配点しました。

期末(第16回目)のテスト 40%, 毎回のコメントシート 30%, グループワーク課題や発表に関する評価 30%, 合計100%
それぞれの評価の観点は事前に示している。

筆記試験の結果にグループ・個人で取り組んだ課題の点数を加えました。

授業参加態度の評価に、事例事前学習(調べ学習)や個別支援計画の作成などの課題の評価を加えました。

- ・グループ活動による授業のまとめとして作品発表を行い、それを踏まえたレポートおよび授業ノートの提出を課した。
- ・課題レポートからは授業の理解度を評価し、授業ノートからは参加意欲や発展的学びの視点から評価した。

・弾き歌いの実技試験および音楽理論の筆記試験により評価した。採用試験および保育現場において必要とされるレベルを基準とした。

- ・創作の過程および出来上がった作品の発表により評価した。

授業コード3403591
実践した模擬保育の計画と実践, 振り返りの内容から評価
授業コード4403481
調査した内容をまとめたレジメとプレゼンから評価

【2891011 心理学概論】記述試験を実施し、授業内容への理解度及び、理解したことを説明する力について、それぞれ採点基準を設けて、採点基準に応じて評価を行った。
【2891021 心理学実験 I】授業内で複数回提出されたレポートを、毎回、採点基準に従って採点し、最終的にそれらを平均した点で評価をした。
【3892311 心理実習 I】調べ学習への参加態度、及び学外での実習態度、記録に基づき採点を行う。

授業の理解度を試験によって、授業への参加度を出席状況によって評価し、それらを総合して成績評価を行った。

- ・幼児期の教育の特性である「遊び」を通した総合的な指導について、日本の幼児教育史の流れの中で、どのようにあつかわれてきたのか、授業や教科書等を通して自分なりに整理することができたか。
- ・具体的な幼児の遊びの姿を通して、その意味や学びを捉えることができたか。
- ・授業への主体的な取組、グループ協議・発表への積極的な態度等。

小テスト 15点×2回 計30点
保育実技発表 20点
製作物 10点
レポート 15点×2回 計30点
授業態度(発言、グループワーク等) 10点
最低点 60点 最高点100点 平均92.5点

毎授業における授業参加の評価を小課題などで評価するとともに、期末のテストで知識定着を問う

毎回の小課題(2点×15回)+レポート課題2回(35点×2回)=100点

子どもの権利が侵害されていることに対する気づきがあるか。様々な背景をもつ子どもたちに配慮ができてい
るか。子どもの権利を保障するための工夫がみられるか。

両コースともに授業への参加とテストの成績を総合して、能力の向上を判断している。

①出欠席は2/3以上の出席を前提とし、得点化している。
②レポートを提出させている。
(①と②の総合評価)

毎回の授業で提出する振り返りの用紙、最終授業までをまとめて提出する課題より授業の理解度、自分の言
葉でまとめる力を評価した。

評価の基準は、期末レポート(60%)、毎回のコメントシート(20%)、授業への参加度合い(20%)による。期末
レポートでは、複数のテーマから1つを選択して3000~5000字でまとめる形式で、評価基準は、①授業内容を
踏まえていること、②適切な先行研究を参照していること、③テーマに関する理解が十分であること、④論点を踏
まえて自分なりの考察が示されていること、⑤誤字脱字・文章校正などレポートとしての完成度、によって5段
階で点数化して評価している。また、コメントシートでは、授業への理解度や主体的に授業に取り組んでいるか
を評価している。なお、評価基準は初回の授業やレポート課題を提示する際に、あらかじめ明示している。

課題に即したものであることは当然のことであるが、自分なりの考えに基づく(もちろん各種論文、文献を参照
したものでもよいが、その課題について十分に理解されていると考えられることが前提)主張が、筋道立てて、
子どもの姿がイメージできるような内容であること。良い悪いの判断が一般論(日本的な躰、儒教的、論語など
の考えによる)ではなく何らかのエビデンスの基づいてなされていること。等を評価の基準として採点した。各
設問につき、(やや理解できている:6、理解できている:8、十分に理解できている:9、十分に理解した上で自
分の考えを主張できている:10)とし、総合的に判断した。

シラバスに則って、定期試験の成績(50%)、レポート・提出物の内容(30%)、授業参加態度(20%)等を踏ま
えて総合的に評価するために計算式を作成し、評価している。レポート等も、評価基準を決め、受講生が説明
を求めてきた際にも説明責任を果たせるようにしている。

後半に読書紹介、事例検証を行わせたため、プレゼンテーションの評価、及び毎回のコメントシート評価を参
考とした。